



International Institute of Multi-cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

Newsletter

Vol. 10 No. 2 2009年 7月

## 鷺の宮卓話

所長 太田敬雄

私には三人の母がいる。実の母と義母、その他にアメリカで私を引き取り、数年間面倒を見てくれた「アメリカの母」ミセス・マイヤーズ。1960年に18歳で留学した私は、実は英語が大嫌いで高校時代は全く勉強せずに過ごした。しかも今日のような英語力の劣る外国人学生のための英語集中プログラムなど存在しなかった時代だったから、私はいきなり大学の授業を、ネイティブの学生と共に受けさせられていた。

何も分からず「これからどうなるのだろう」と不安ばかりが先行する日々。そんなある日、大学の方から近くに住むミセス・マイヤーズに英語を教わりに行くように指示された。以後、私は週一回、マイヤーズ家に行って英語を教わり始めた。

ミセス・マイヤーズは、上は20代から下は小学生まで5人の母親であり、ミシガン大学の修士課程で外国語としての英語を学ぶ学生でもあった。彼女は大変良い先生だったが、時々おかしいことをする人でもあった。

例えば、彼女はスーパーに買い物に行って、そこで枯れそうになっている鉢植えを見つけると「可哀そうだ」といって買って帰るような人だった。私は彼女が家の片隅にある温室にその鉢植えを置いて水をやり、一人その草木に語りかけている姿を時々見かけた。ひとりごとのように聞こえた彼女の語りかけだったが、刈れそうだった鉢植えの草木は青々と茂るようになっていった。

ある日、ミセス・マイヤーズが私に「我が家に来て住まない？」と言い始めた。「二階に長男の部屋があるけれど、彼は今軍隊に入っていてベトナムにいての」とのこと。

私は喜んでそのオファーを受けて、マイヤーズ家の一員となった。結局長男が軍隊から戻るまで2年以上お世話になり、まるで家族の一員のように接していただいた。二度目の留学の時には家族3人でまたお世話になった。

1960年代初め頃、「枯れそうな」若木だったから、ミセス・マイヤーズが私に声を掛けてくれたことに気づいたのは、二度目の留学も無事に終えて帰国し、その後何年も経ってからのことだった。あの時、生き返らせてもらった恩に報いることは私の生涯の課題である。

## ● 2008年度総会報告

今期の総会は5月31日(日)午後3時半から4時半にかけて安中市東横野公民館にて、金井美由紀理事の司会で開催された。伊藤成副理事長の開会挨拶、に続いて決算、予算などの議題について審議。また人事については太田琢雄を欠員となっている研究所副所長とすることに決定し、秋からの英語教室の開催も承認された。

次に、夏の「多文化交流 in マラン2009」の他に3月に「多文化交流 in 釜山2010」を計画していること、秋にはインドネシアから1人招聘することなどを報告した。

## ● 2008年度事業報告

昨年度、「多文化交流」事業は順調に開催することが出来たことは喜びでありました。しかし他方ではニューズレターの発行もままならず、会員の方々には十分に活動をお伝えすることができなくなってきたことを重く受け止めています。今年度は下記のような事業を実施しました。

事業名	事業内容	実施日時	実施場所
総会	決算・予算・事業計画等	08/5/31	安中市東横野公民館
懇談会	懇談会「アニメの世界に韓流ブームは起こるか!？」	7/4	東横野公民館
研究会	懇談会「ディオンを囲んで」 文科省留学生ディオンの話	8/19	Pepo
研究会	「朱坤霞さんを囲んで」	9/28	哲学堂
交流活動	「多文化交流 in マラン2008」	8/26~9/3	マラン市
交流活動	「多文化交流 in 草津2008」	12/25~28	安中・草津・東京
その他	「ぐんまNPOフォーラム」参加	8/23	昭和庁舎
	ぐんまNPO協議会 県央例会 第2部担当	3/8	総合福祉センター
学会支援	日本比較文化学会活動支援	随時	事務所
ニューズレター	Vol.9 No.1	5月	

## ★★新入所員挨拶★★

4月より国際比較文化研究所に従事しております、太田琢雄です。副所長という責任ある役を頂き、その名に恥じぬよう研究所の活動を支え、また活動の場を広げていきたいと考えています。現在は、これまで所長が一人でこなしてきた事務作業やニューズレターの作成などを支えながら、安中市原市に研究所主催の民間教育施設『MANAPAL』(マナパル)の設立を目指し、準備を進めています。「真の国際理解は、心のバリアフリーから」。この研究所の信念に基づき、



太田琢雄 1976.8.22 生

【学歴】新島学園高等学校・米国コンコーディア大学(behavioral science 専攻)・日本大学通信学部にて高校英語教員免許取得

【職歴】2002~学校法人有坂中央学園中央高等専門学院(教務部・広報部リーダー等) 2009~群馬県安中市原市学童クラブ指導員(英語学習も担当)

若い世代のコミュニケーション能力や思考力、感受性の発育を支えていくことが、研究所所員としての大きな目標です。

地球と子供たちのより良い未来のために、精一杯活動していきまます故、ご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

## ● 2008年度決算・2009年度予算報告

○ 収入の部	2008年度決算	2009年度予算
1、財産運用収入		
利息収入	86	80
2、会費収入		
正会員費	248,000	300,000
団体会員費	0	10,000
3、事業収入		
学会活動支援	183,436	20,000
言語・文化教育	0	360,000
多文化交流	1,710,000	2,500,000
特定事業	10,000	
4、寄付収入		
多文化交流事業寄付	157,000	200,000
一般寄付	106,880	100,000
当期収入合計	2,415,402	3490080
○ 支出の部		
2、研究会・講演会	60,000	60,000
6、学会支援活動	7,710	20,000
7、言語・文化教育	0	150,000
8、多文化交流	1,670,550	2,400,000
10、管理費		
賃金	13,000	300,000
賃借料	16,128	0
事務費	133,457	130,000
通信費	164,717	250,000
理事会費	1,961	5,000
広告宣伝費	0	30,000
旅費	59,000	60,000
負担金	28,000	38,000
手数料	1,090	5,000
12、予備費		30,000
当期支出合計	2,155,613	3478000
当期収支差額	259,789	12080
前期繰越収支差額	373,564	633,353
次期繰越収支差額	633,353	645433

\* 紙面の都合上、決算、予算共に0円の項目は削除しました。

### 研究所の新たな活動領域

民間教育施設

# Manapal

について

(文・太田琢雄)

国際比較文化研究所は、安中市原市3-4-8(旧原市学童クラブ)に新たなオフィスを設置し、そこを教育施設MANAPAL(まなぱる)と名付け、小中高対象の英語教室を土台とした、民間・地域が主体の教育の場にしていこうと考えています。

10月のスタートを目標に、現在は、家屋の改築等を全てDIY(自主作業)で行っております。ありがたい事に、この作業を私の前任校での教え子たちが、声を掛け合い、時間をみつけて手伝いに来てくれています。

この子どもたちは過去にそれぞれ、問題行動を起こし新聞沙汰になったり、高校退学を経験したり、不登校時代を経験したりと、様々な葛藤と戦って生きてきた子どもたちです。

「人皆に美しき種あり 明日何が咲くか」\*1

過去に世間で「おちこぼれ」のレッテルを貼られた彼らが、この教育施設設立のために集い、無償で手伝ってくれている。このことに感動を覚えると共に、彼らの活躍がこの施設の原点であることを皆様にも知って頂きたいと思い、ここに綴りました。

\*1 安積得也「明日」より引用  
(掲載内容は本人たちの承諾を得ています。)



【MANAPALについてのお問い合わせは、研究所本部、もしくは080-6612-9636まで!】

## ☆会費納入とご寄付のお願い☆

振込用紙を同封しますので、研究所の活動をお支え下さい。年会費は個人が2000円です。今年度から振り込み経費は会員の負担にならないように振込用紙の種類を変更しました。これによって振込手数料を追加でお支払いいただく必要がなくなりました。

## ☆インドネシアからの学生招聘事業☆

昨年は冬の最中にイチャさんとウィラスティさんの二名を招聘出来ましたが、今年の招聘はまだ実施出来ていません。今のところ一名を招聘出来そうなところまで皆さまからのご寄付を頂戴しております。このプロジェクトをお支え頂ける方は「招へい寄付」と明記の上寄付金額を記してお振込み下さい。会費と同時にお振込みの場合には会費〇〇年度分、招へい寄付、一般寄付に分けた金額のご指定をお願いします。

もちろん、特に使用目的を指定しない一般寄付も可能です。有難く多文化理解推進の活動に生かさせていただきます。

## 会費・寄付(2009. 4. 26. ~2009. 7. 2. )

昨年度は会報の発行が極端に少なかったにもかかわらず、多くの会員に研究所の活動を覚えていただき、会費をお振り込みいただきましたことに、心から御礼申し上げます。なお、領収書を発行していませんので、ここにお名前が無かった場合は必ず事務局の方にご一報をお願いします。なお、前号のニューズレターに追記として別紙で挿入しました掲載漏れの方をここに改めて掲載させていただきます。

敬称略、順不同

＜新入会員＞ 林恵美子（掲載が遅くなり失礼しました。）、磯貝俊行、小島尚剛、日下浩樹、

＜会費＞会費納入、有難うございました。研究所の活動を支え続けていただきありがとうございます。小柏桂子、岩本謙、前田浩、真下東雄、伊藤成、幸田一彦、前田申栄、山縣英明、狩野真由美、野口紀子、森泉寿義雄、太田玲子、間庭有美子(08,09)、山崎恵美子、中易圭子、森泉宏昭、関口澄、朴敬二、長谷川路子、柏木恵、加藤靖弘、鎌田春香(08,09)、森村久子、青木洋子、佐藤貴雄、新井美弥子、川村十朱子

＜寄付一般＞ 幸田一彦、真下東雄、野口紀子、森泉寿義雄、金井美由紀、太田玲子、間庭由美子、森泉宏昭、鎌田春香、日下浩樹

＜「インドネシアより招聘」指定寄付＞ 岩本謙、前田浩、Yayoi Eisterhold、長谷川路子、(7月1日現在計：ドルでの寄付があるため概算で約259,142円。)皆様のご協力のおかげをもちまして、秋には学生を1人招聘出来ることになりました。受け入れのご協力もよろしくをお願いします。

編集後記：今号から、副所長がニューズレターの編集を担当してくれることになった。感謝である。今後、今までより少しは見やすく楽しい誌面作りがなされるものと期待している。

同時に研究所の活動にも厚みが出ることを願っている。(敬)

Newsletter 発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所

事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷲宮3413-3

電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393

e-mail：[mtharunac@xp.wind.jp](mailto:mtharunac@xp.wind.jp)

郵便振込口座番号：00510-0-61974 名称：国際比較文化研究所